

ふれあいの
地域づくり

助け合いの和を広げよう！

〈自助・共助・公助〉とは みんなで考えよう

広報では先月号から、皆さんの身近で地域のために尽力されている町内会長さん、自治会長さんに登場いただき、ご紹介しています。

第2回目となる今回は、文珠第三町内会の星会長に町内会で取り組まれていることや課題となっていることについてお話しを聞いてきました。

文珠第三町内会 星 定夫 会長



中学校と協力・ 連携した地域づくり

わたしたちの町内は、歌志内の出入り口に位置していることから、市外から訪れる方にきれいなマチとの印象を持つてもらえるよう、沿道の草刈りやごみ拾いなどの地域美化に努めています。また、市内唯一の中学校があり、町内と学校が協力・連携した地域づくりに取り組んでいます。

中学校移転の際に、何かいっしょにできることはないかと学校に呼びかけたところ、交通安全週間に街頭啓発を行うことが決まりました。この取り組みが実を結び昨年、歌中が全道でただ一校、北海道安全協会会長と北海道警察本部長連名の表彰を受けられ、非常にうれしく思っています。今は生徒会の皆さん中心の活

動となっておりますが、今後は全校生徒での活動になってくれればと期待しています。

最近では、青少年部と婦人部などが主催する町内会行事などに参加してくれる中学生も増え、お手伝いしてくれています。町内会としても微力ではありますがグラウンド周辺の草刈りを行ったり、受験生には合格祈願のハチマキを、卒業生やその担任の先生には手作りの紅白まんじゅうを贈ったりしています。

こういった一つひとつの取り組みが、地域のつながりを深めていく、たいせつなものだと感じています。

独り暮らし高齢者の

支援改善が課題

本町内は区域が広く、他の地域と同様にお年寄りの割合が高いうえ、町内会加入世帯の7・8割を一軒家で占めているという特徴を持っています。特に一軒家に住む独り暮らしのお年寄りが多く、重労働である除雪や草刈りなどの支援をこれらの世帯すべてに

行えていないのが現状で、その改善が課題となっています。

事故が起きないように、各班长を通じて、定期的に連絡を取り合うなどの体制をとっていますが、じゅうぶんとはいえません。

このような地域住民の高齢化に伴う課題は、本町内だけでなく、他の町内会等も抱える悩みであると思いますので、他の町内会等との連携を図り情報交換しながら、少しずつ自分たちの力で改善できればと考えています。

町内会活動に

参加・ご協力を！

市では町内会や自治会に対して、市政全般にわたるさまざまな仕事において、地域の皆さんとの橋渡しをする役割をお願いしています。

皆さんの地域をよりよく住み良いものとするために、町内会・自治会活動をご理解いただき、行事等への参加やご協力をお願いします。

復興への願いを込めて

東日本大震災で被災されたかたがたに対し、「がんばれ日本」を合い言葉に、今もなお、さまざまな支援活動が行われています。
わたしたちのマチ「歌志内」でも、1日も早い復興を願って、被災地の皆さんを支援するための取り組みを行っています。

国・北海道からの要請を受け、市消防本部から消防士3人が緊急消防援助隊の北海道隊第5次部隊員として、3月25日から30日までの6日間、震災被災地の宮城県石巻市に派遣されました。

消防士3人が25日、市長室を訪れ、出発にあたっての決意を報告。泉谷市長から「これまで培った経験、日ごろの訓練を生かし任務にあたってください」と激励の挨拶を受け、被災地に向け出発しました。現地では、約1週間にわたり野営しながら捜索や支援活動を行い、30日、無事任務を終え帰郷されました。

消防士3人を被災地石巻市へ派遣



▲泉谷市長に被災地への出発を報告する消防士の皆さん。(写真左から遠藤司令補、秋山副士長、渡辺副士長)

支援物資

受け付け窓口開設

市では、北海道が実施する震災被災地への支援物資を搬入する取り組みに協力・支援を行うため、公民館に4月15日と16日の両日、支援物資の受け付け窓口を開設しました。急な取り組みであったにもかかわらず、個人や町内・自

治会、企業等からたくさんの支援物資が寄せられました。寄せられた支援物資は、市職員により20日、北海道の窓口である空知総合振興局に届けられました。

■寄せられた支援物資
 ▼食料品 カップ麺等30箱、缶詰・粉ミルク38缶
 ▼生活用品 箱ティッシュ等18箱、紙おむつ11包

日赤歌志内市地区

震災義援金の状況

日本赤十字社歌志内市地区で受け付けを行っている「東日本大震災義援金」の状況についてお知らせします。

なお、個人名については省略させていただきます。自治会などの単位で、受け付けた順に掲載しています。

- ▼上歌新栄町自治会 155,200円
- ▼本町・川向町内会 106,000円
- ▼神威町内会 66,000円
- ▼歌志内市婦人会連絡協議会 50,000円
- ▼歌志内中学校生徒会 43,153円
- ▼東光町内会 149,635円
- ▼本町第一町内会 12,000円
- ▼歌神川向町内会 51,800円
- ▼歌神二区自治会 17,800円
- ▼美山町内会 74,000円
- ▼神威桜沢町内会 39,970円
- ▼文珠新泉町町内会 80,690円
- ▼しらかば町内会 94,800円
- ▼神威神楽岡町内会 84,500円
- ▼文珠第二町内会 165,637円
- ▼本町第二町内会 103,300円
- ▼匿名(1件) 10,000円
- 4月11日現在の義援金累計 1,369,485円



▲歌中生徒会で集めた義援金を泉谷市長(地区長)に手渡す河合副会長。

▼学用品 ノート・筆記用具等104品



▲写真は、集まった支援物資。ご協力ありがとうございました。

歌志内市スポーツ奨励賞

スポーツ活動等で優秀な成績をおさめた市民を表彰する平成22年度の



▲写真左から小野歌中校長、スポーツ奨励賞受賞の中川さん、吉田教育長

歌志内市スポーツ奨励賞受賞者が決定し、3月25日、教育委員会で授与式が行われました。

今回は、北海道陸上競技協会が主催する第17回北海道中学校新人陸上競技大会800mの部で、第6位に入賞した歌志内中学校2年生（学年は授与式当日）の中川雄介さんがただ一人選ばれました。

式では、吉田教育長から「今後のさらなる活躍を期待します」と表彰状が贈られました。

消防庁長官永年勤続功労章

歌志内市消防団団本部付分団長を務める加藤正志さんが、永年にわたり地域の消防活動に貢献した方をたたえる平成22年度消防庁長官永年勤続功労章を受章されました。

加藤さんは昭和49年に消防団に入団以来、37年間にわたり市民の生命と財産を守るため、各種消防活動に率先して従事され、分団長に就任されてからは、団員の教育訓練や防火思想の普及啓発に努められています。

3月30日、市長室で伝達式が行わ



加藤正志さん
(本町第二・72歳)

れ、泉谷市長から賞状等が手渡されました。



住宅用火災警報器

設置期限まで残り1か月！

住宅用火災警報器は、全ての住宅で設置することが義務付けられています。警報器を設置していたことで、「早期に発見でき大きな火災にならなかった」、「逃げ遅れずに済んだ」といった事例が数多くあります。

取り付けたときから効果を発揮する警報器。皆さんのかけがえのない命とたいせつな財産を火災から守るため、必ず期限までに取り付けてみましょう。

〈消防本部予防・保安グループ ☎ 4233255〉

■取り付けは5月31日までに

新築住宅は、新築時に警報器を設置することが義務付けられています。平成23年5月31日までに設置することになっていきます。期限まで残り1か月です。早めに警報器を取り付けましょう。

※市営住宅は市が設置します。

■設置場所は寝室など

警報器を設置する場所は「各寝室に対して1個」となっています。また、2階に寝室がある場合には、階段の天井または壁にも設置しなければなりませんので、次の点に注意して取り付けましょう。

▼天井の場合 警報器中心にある感知部分を壁から60cm以上離して取り付けます。また、梁があるとき

には、感知部分を梁から60cm以上離して取り付けてください。

▼壁の場合 天井から15cm程度離し、そこから50cm以内に感知部分があるように取り付けます。なお、エアコン等の吹き出し口がある場合には、吹き出し口付近から1.5m以上離して取り付けてください。

■警報器は2種類

警報器には「煙式」と「熱式」の2種類あります。

寝室や階段に設置するのは「煙式警報器」です。取り付けるときには、販売店などによく確認・相談のうえ、間違いのないようにしましょう。

■お気軽にご相談を

消防では警報器の販売や業者委託を行っていませんが、設置場所等のご相談はいつでも受け付けています。

福祉のまちづくりのための

市民アンケート結果

最終



「福祉のまちづくりのための市民アンケート」の集計結果を、3月号からお知らせしてきましたが、今回の掲載をもってすべて終了となります。今後は、この結果を「歌志内市地域福祉計画」策定の貴重な資料として有効に活用させていただきます。

アンケートに回答いただきました市民の皆さん、ご協力ありがとうございました。

〈福祉事業グループ 423213〉

今回は、問11～問13までを前回までと同様に、回答件数の多い順に3位までを掲載しました。なお、結果の数値は、複数回答のものを「件数」で、そうでないものを「%」で表示しています。

住みよいまちづくりへの

希望などについて

■問11 住む地域をより住みやすくするためにどのようなことが必要だと思いますか

(1) 地域住民同士の声かけ、助け合いなどの近所づきあいがあること

146件

(2) 高齢者、障がい者、子育てなどの福祉サービスが充実していること

69件

(3) 民生委員を中心とした高齢者の見守り・訪問活動があること

69件

■問12 今後も歌志内に住み続けたいと思いますか

80・3%

(1) 住み続けるつもり

9・0%

(2) 転居したい

6・8%

(3) 住み続けたいが転居せざるを得ない

6・8%

どのような点で住み続けたいと思いますか

(1) 家・土地があり昔から住んでいる、愛着があるから

119件

(2) 近くに友人・知人・親類がいるから

99件

(3) 近所づきあいがよいから

70件

■問12-2 問12で「住み続けたいが、転居せざるを得ない」、「転居したい」と答えた方に対しての質問。どのような点で転居したいですか

31件

(1) 買い物などに不便だから

16件

(2) 医療サービスが不十分だから

10件

(3) 通勤・通学に不便だから

10件

■問12-3 歌志内で住み続けるために、どの項目に対して経済的に負担することができますか

105件

(1) 医療費

85件

(2) 通院・外出のための交通費

59件

(3) 除雪費

59件

■問13 地域福祉計画を作るうえで、

住民が集まって意見を話し合ったりする懇談会がありますが、どのような懇談会に参加されますか

(1) どちらともいえない

56・6%

(2) 参加したい

36・1%

(3) 参加したくない

7・3%

■問13-1 どのようなことを計画に含めた場合、計画の達成に関わりたいと思いますか

(1) 高齢者や障がい者の在宅サービスに関わること

81件

(2) 買い物に関する事

68件

(3) 除雪に関する事

67件

回答者の構成割合など

今回のアンケートには、男性と女性が、ほぼ同じ割合で回答をいただいています。

回答された方を年齢別にみると、

65歳以上の方が全体の65%を占め、

職業別では、65歳以上の方の割合が高いことが影響したためか「無職」

が約60%となっています。

世帯構成では、「夫婦だけ二人世帯」が55%でした。

また、歌志内での居住年数は、「20

年以上」が最も多く、住居の形態は、

持ち家と集合住宅がそれぞれ半数で

した。